2025-7-30　年金広報検討会（第 21 回）

〇安濟年金広報企画室長　それでは、定刻になりましたので、ただいまより第21回「年金広報検討会」を開催いたします。

皆様御多用の中、暑い中、御参加いただきまして、ありがとうございます。

私は、７月８日付で着任いたしました、年金局年金広報企画室長の安濟と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

議題に入る前に、事務的な連絡事項を申し上げます。

本日は、対面とオンラインの併用開催としてございます。

オンラインにて参加の方は、御発言される際は「手を挙げる」ボタンをクリックし、座長の指名を受けてから、マイクのミュートを解除し、御発言をお願いいたします。御発言終了後は、再度マイクをミュートにしていただきますようお願いいたします。

続きまして、７月８日付で着任いたしました、年金局総務課長の山下が御挨拶申し上げます。

〇山下総務課長　７月８日付で年金局の総務課長に着任しました、山下と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

このたびは、皆様、暑い中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ちょうど７年前、私も実は安濟の席に座っていまして、ちょうど「年金広報検討会」の立ち上げのときにおりました。

年金は、皆さんに大きく影響しているし、皆さんの関心事項であるのですが、ややもすると、制度をつくる側の立場で見ていて、実際に利用する方々の目線に立って説明ができていないのではないか。このため、年金制度が加入者・受給者に届いていなかったことがあって、７年前、こういった会を開催させていただきました。私たちは、年金について分かってもらいたいと考えております。

また、逆に言うと、私たち制度をつくる側が、年金について皆さんがどう思っているのか、分かっていないところも、この場を通じて勉強させていただいています。

これまで皆様方の御指導をいただきながら、年金について、何としてでも分かってもらおう、また、加入者・受給者が何に不安をもっているか理解することで、私の年金、そして、みんなの年金ということがしっかりと伝わるためにはどうしたらいいのか、アドバイスをいただいていると理解しております。

今後とも、皆様方の御指導をいただきまして、しっかりと年金について皆さんに知っていただく、そして、安心して使っていただくためにはどうすればいいか、考えてまいりたいと思いますので、今後とも御指導をよろしくお願いします。

〇安濟年金広報企画室長　議事に入る前に、議事の公開及びペーパーレス化の御説明と資料の確認をさせていただきます。

資料１－１でお配りしている年金広報検討会開催要綱に基づきまして、本会議について

は、原則公開することといたしてございます。

議事録につきましても、これまでどおり、原則公開することといたします。

また、厚生労働省では、審議会等のペーパーレス化を推進しており、本日の会議におきましてもペーパーレスで実施いたします。

なお、傍聴の方には、あらかじめ厚生労働省ホームページでお知らせしておりますとおり、御自身のタブレット等の携帯端末を使用して、厚生労働省ホームページから資料をダウンロードして御覧ください。

資料は、次第に記載されているものに加えまして、構成員及びオブザーバーの皆様には、座長から御提出いただいた資料を机上配付しております。

それでは、議事に移ります。

カメラの方がいらっしゃいましたら、ここで退室をお願いします。

いらっしゃらないようですね。

これからの議事運営は、上田座長にお願いいたしたいところですが、上田座長は電車の都合で遅れてご到着とご連絡いただいておりますので、私のほうでしばらく進行させていただきます。

よろしくお願いします。

それでは、議事に入らせていただきます。

本日の議題は３つございます。

１つ目が「年金広報の取組と今後の進め方について②」。

２つ目が「次期公的年金シミュレーターの設計・開発について②」。

３つ目が「年金教育について」の３つを議題といたします。

まず、議題１の「年金広報の取組と今後の進め方について」資料の説明をいたします。

資料２－１を御覧ください。

「年金広報の取組と今後の進め方について」でございます。

こちらは、第20回「年金広報検討会」における主な御意見をまとめさせていただきました。

年金制度のポイントとしては３つございまして「年金制度の基本的な仕組みの広報」、「生涯を通じた年金教育の強化」、「年金広報の進め方」の３つに大別されます。

さらにその中を細分化していきますと、１つは「若年層の年金に対する不安や誤情報の課題」でございまして、こちらは、インターネットやSNS上の誤解を招くネガティブな情報が影響を与えているのではないのか。

２ポツ目は、過激な情報、フェイク情報が拡散しやすいSNS環境の中で、正確でシンプルな情報を発信することが重要といった御意見を頂戴いたしました。

２つ目は「受動的な情報収集の課題」についてでございます。

なかなか自分から情報を取りに行かない受動層へのリーチが課題ではないのかといった御指摘を頂戴しております。

続きまして、２つ目の真ん中の部分「生涯を通じた年金教育の強化」でございます。

（１）が「学校教育における課題」でございます。

１つ目のポツでございます。特に高校では、ライフプランとの連携が求められるといった御意見を頂戴いたしました。

２つ目のポツで、中高生にとって効果的な教材開発が必要ではないかという御意見を頂戴いたしました。

３つ目のポツでございます。公的年金シミュレーターを授業で実際に操作する機会を設けてはどうかという御指摘を頂戴いたしました。

（２）でございます。派遣型授業の実施の課題ですが、こちらは、様々なアプローチがある中で、飽和状態という御指摘を頂戴いたしまして、厚労省などと連携を強化しながら効果的な教育を推進する必要があるという御指摘を頂戴いたしました。

（３）が「新社会人など多様な年金教育の課題」ということで、新社会人に対して、できるだけ個別周知など、自分事として捉えられるようなアプローチが必要ではないのかという御指摘を頂戴いたしました。

３つ目「年金広報の進め方」でございます。

こちらは、KPIなど、様々なデータを使いながらプロジェクトを設計する必要があるといった御指摘を頂戴いたしました。

次のページです。社会保障審議会年金部会も開催されまして、そこでも多くの広報に関する御指摘、御意見を頂戴いたしました。

当検討会からいただいたご意見と重複する部分もございますので、基本は資料での御紹介とさせていただきますが、特に年金部会ということで「４．令和７年年金改正法の周知」といった御意見をいただいております。

こちらにつきましては、今回の改正の中で、２つ目のポツですが、被用者保険の適用拡大がございますので、任意適用拡大と併せて広報すること、それから、公的年金、社会保険の本質を強調することも重要だという御指摘を頂戴いたしました。

加えまして、最後のポツですが、遺族年金の見直しは複雑ですので、具体例を加えて、分かりやすい広報が必要という御指摘も頂戴いたしております。

こういった今までにいただいた御意見を取りまとめまして「年金広報の取組と今後の進め方について（案）」を作成してございます。

こちらも、先ほど申しました課題ごとに応じて、それぞれまとめてございます。

１つ目の「年金の基本的な仕組みの広報」でございますが、１つ目「年金制度の基本的な仕組みの理解の促進の対応」ということで、こちらについては、制度の見直しの趣旨・内容について、重点的な項目、伝え方を検討するといったことを方向として考えてございます。

「（２）誤情報や受動的な情報収集への対応」ですが、短い動画やウェブ広告などを使いながら広報を検討する方向を考えてございます。

２つ目「生涯を通じた年金教育の強化」でございます。

「学校教育における課題への対応」ですが、こちらは、年金教育を強化するための方策を検討会で御議論いただければと考えております。

派遣型授業の課題についてですが、できるだけ情報を整理してお示しできればと考えてございます。

「（３）新社会人など多様な年金教育への対応」ですが、様々なアプローチを考えていきながら、検討会で御議論いただければと考えてございます。

３つ目「年金広報の進め方」でございますが、こちらにつきましては、様々な既存の統計調査がございますので、その統計調査や世論調査などから理解の状況などを把握していければと考えてございます。

年金改正法の周知につきましては、今後、正確な情報を様々な対象者に対してアプローチしていければと考えております。

こういった方向性を中長期的に図示したものが、次のページになってございます。

それぞれ項目ごとに令和11年度まで、大体５年ぐらいのスパンでお示しさせていただいております。

続きまして、前回の検討会でお示しいたしました資料を少しリバイスしまして、令和７年度の年金広報、年金教育の取組の状況をまとめてございます。

一番上が、新たに追加した部分となってございます。

今後のスケジュールということで、令和７年８月７日に「こども霞が関見学デー」でイベントを開催しております。こちらは、応募は締め切っておるのですが、御紹介ということでございます。

それから「ユース年金学会」につきまして、年金シニアプラン総合研究機構さんと共催するということで、御紹介でございます。11月29日でございます。

今後の本検討会ですが、本日、７月30日の検討会の後に、22回、23回と予定しております。

以上が、資料についての御説明でございます。

上田座長が到着いたしましたので、司会進行をよろしくお願いします。

○上田座長　すみません。津波警報で横須賀線が保土ヶ谷駅で20分止まってしまいました。遅れて大変失礼いたしました。ここから参加させていただきます。

それでは、御説明ありがとうございました。

本議題について御意見がある方がいらっしゃいましたら、挙手の上、御発言をお願いいたします。

大変恐縮ですが、本日、議題がてんこ盛りでございまして、スケジュールの関係上、お一人様の御発言はできるだけ簡潔にお願いできればと思っております。

それでは、御発言がある方は、挙手をお願いいたします。

特によろしゅうございますか。

○上村構成員　御報告ありがとうございます。

関西学院大学の上村です。

私の関心事は、今後の進め方の案の一番右にある「年金広報の進め方」のKPIの設定です。効果測定になります。

いろいろなデータがあると言われましたので、ぜひそういうデータの一覧とかを見せていただけると、どのような戦略でアウトカムなり、アウトプットなりを取っていけるのかということが見えてくるのかなと思いますので、今後、そこはお願いしたいと思います。これが１点目です。

２つ目は、誤情報対策をどのようにするのかは結構難しいと思っているのですが、多分、そのときに言われているのは、正確でシンプルな情報をいかに出すか。これが一つの解決策だとされていると思います。

誤情報がそもそもどのように発生して、どのように蔓延していくのかというメカニズムも我々は知る必要があるのかなと思いますし、あとは、誤情報に対して受動的に対応するのか、もしくは能動的に対応するのかという２つのアプローチがあると思うのですが、その辺りの戦略性を考えていく必要があるのかなというのが２点目です。

３点目は、年金の改正によってこうなるというような情報の出し方と、そもそも年金制度はこういうものだという情報の出し方と２つパターンがあるかと思うのですが、改正によってこうなるという情報にかなり偏っているような気がしています。

私は、年金の制度について大学で教えているのですが、大学では、改正の情報も提供するというよりは、むしろ年金制度がどういうものなのかという根本的な情報の出し方を私は結構するようにしています。

そうすることによって、要は、年金の制度の意味とかをより理解できます。どうしても厚生労働省は省庁なので、改正情報は結構出るのですが、どちらかというと、そもそも根本的な年金制度の在り方が結構手薄になっているのではないかと。出していることは出していると思うのですが、そのようなことを感じております。

以上です。

○上田座長　ありがとうございました。

そのほかに御意見は。

河井先生、どうぞ。

○河井構成員　東海大学の河井です。

１回目は所用により休みましたので、把握できていない部分があるかもしれませんが、私は専門が行政広報ですので、年金そのものではないのですが、今日、例えば資料の４ページに出てきている課題ごとにどう対応するかみたいな議論が提起されていて、重要だと思うのですが、こうなると、後追いというか、びほう策的になりがちなのではないかと。

むしろ広報はどういう流れで、段階的に進めていくのか。

広い認知を取った上で、対象ごとにしっかりとセグメントして、タッチポイントを考え

たターゲティングを行う。

その上で、引っ張り込んで、ランディングポイント、着地点で信頼してもらう。もう一つは共感してもらう。

最後に、インセンティブを用意したり、ハードルを下げて行動してもらう。

この大きな流れの中で、それぞれがどこに位置づけられるのかというところが明確ではない。

例えば６ページに、分かりやすい広報のために、ホームページ、SNSを活用しますと書かれていますが、ホームページは基本的に着地点。

では、SNSは認知を取るために使うのか。それとも、今ですと、エコーチェンバーみたいな言い方で言われているわけなので、狙い打ちというターゲティングに使うのかみたいなところの発想がないまま「分かりやすい」と言われても、実際にその情報が届くのかというところは大きな課題になると思います。

それぞれの取組が、例えば「わお」と思わせて、認知を取るための取組なのか、そもそも狙い打ちする対象を明確に定めて、自分事にしてもらうための取組なのか、あるいは先ほど上村先生もおっしゃっていましたが、受動的に引っ張り込んだ上で信頼してもらうのか。

シンプルであればいいというわけでは必ずしもないのだと思います。引っ張り込んだところで、シンプルではよく分からない。

しかし、最初の認知を取るときに、多様な情報があり過ぎては困るというような話になると思いますし、セグメントというところで自分事にしてもらう。

関心惹起という言い方をしてもいいかもしれませんが、セグメントをするときに、よくここで使われている「若年層」はセグメントになっているのか。ある程度の年齢層が、年金についてほぼ同じような考え方を持っている、あるいは理解度があることは考えられないと思います。

「若年層」というセグメント自体を実は疑う必要があるのではないだろうかみたいな視点もこれから考えていくことが必要なのかなと思うのですが、第１回目を休んでいるので、ひょっとするとずれた発言になっているかもしれません。

以上です。

○上田座長　ありがとうございました。

事務局、何かありますか。

よろしいですか。

ほかに御意見はいかがでしょうか。

よろしゅうございますか。

ありがとうございました。

それでは、ただいまいただきました御意見は、今後の年金広報について生かしていただきたいと思います。

次に、議題２の「次期公的年金シミュレーターの設計・開発について」受託事業者の株式会社日立製作所さんから御説明をお願いいたします。

〇株式会社 日立製作所　よろしいですか。

資料ナンバーは、資料３－１となります。

こちらは「次期年金見える化Webサイト　シミュレーション機能追加におけるデザインコンセプト」をどういう方針で設計していくかというところをお話しさせていただければと思っています。

では、ページをめくっていただいて「はじめに」です。

ページをめくってください。

「本改修の目的の整理」です。

まず、現状の公的年金シミュレーターにおいては、老齢年金のシミュレーションを行ってきました。

今回の改修では、次期の公的年金シミュレーターとして、公的年金である障害年金と、私的年金であるiDeCoを機能追加するような改修を今検討しております。

その中で、各シミュレーションにおける意図やユーザーへの訴求内容を整理した上で、設計思想の共有を図った上で検討できればというところで、本資料をまとめております。

では、ページをめくっていただければと。

今回、このコンセプトを検討するに当たって、現行のシミュレーション機能（老齢年金）の課題収集、及び次期シミュレーション（障害年金・iDeCo）のニーズや訴求方針を整理するために、以下の４つという形で現状の分析を行いました。

まず「定性」としては「ユーザーインタビュー」と「有識者インタビュー」。

先生方にもいろいろと御意見いただきながら「定性」という意見を集めながら、あと、大きいところは「定量」の右下「会場調査」として、300名強の方を集めて、定量的なデータを取るといった取組を行いました。

ページをめくってください。

以降「デザインコンセプト」としてお話しさせてください。

まず、こちらは「“初期”構築時のデザインコンセプト」となります。

内容は、細かいところは割愛しますが、こういった形のコンセプトというところで初期を構築して、今回もここは踏襲できればと考えております。

では、次のページで、もう一つ大事なところで「各試算機能のポジショニングの整理」を行いました。

今回、障害年金とiDeCoの試算機能を追加するに当たって、ここの位置づけを整理することによって、公的年金シミュレーターが受け入れてもらえるような形を検討しました。

左下、先生方にいろいろと御意見を聞いたところは、老齢年金がメインだねというところ。

あと、並列の扱いは違和感があるねという御意見をいただきました。

右側の会場の調査で、主に画面遷移周りに関して、アンケートを取りました。

その結果「サンプル３」と記載しているところ、老齢と障害とiDeCoが並列のほうが使いやすいよという形で意見をいただきました。iDeCoに対して、公的年金シミュレーターの中でも直接的なニーズがあるところがこの中で結果として出たのかなと思っております。

ページをめくってください。

こちらは、ポジショニングを整理したところです。

先ほどの調査結果をまとめて、こういう形で定義できればと考えております。

ページをめくってください。

以降は、各シミュレーション機能における分析とコンセプトというところでお話しさせてください。

１つ目は、老齢年金になります。

左側に記載している「働き方・暮らし方」「期間」の入力について理解できましたかというところであったり、ほかのシミュレーターと比べてどうでしたかというところで意見を集めました。

こちらの結果からは、現行のシミュレーターは一定の評価はあるのかなというデータがあります。

一方で、右側、入力に当たって「期間」は何のことを指しているのかであったり「年収」は平均なのか、最大・最小なのかという入力項目の曖昧なところ、仕様の理解に対しても意見が出ました。

なので、この辺りは改善しながら検討できればと考えております。

次のページをお願いします。

こちらについても、会場調査の結果となります。

この中で、特に左下「今後追加してほしい機能や情報があればお選びください」というところで、入力ナビゲーション機能、次に何をすればいいのかであったり、操作方法や用語に対する説明が欲しいといった入力のサポートに対する期待がありました。

なので、この辺りも一つ改善のポイントかなと思い、検討を進めていこうかと思っております。

ページをめくっていただいて、基本は、この３つのコンセプトを基に現行の老齢年金の改修を進められればと考えております。

基本は、既存コンセプトを洗練させながら、検討を行っていこうと考えています。

ページをめくってください。

こちらは、今回、特に問題として挙がったところで、特にQRコードではなくて、ウェブから遷移した場合に入力がしづらい、分かりづらいといった意見が出たところがあります。

なので、今回の改修においては、まず、最小限の入力でグラフを表示させる。さらに、そこで細かいことを知りたい方は、さらに入力を加えて、シミュレーションの精度を上げるような形で画面遷移を見直しできればと考えております。

ページをめくってください。

続きまして、制度・仕組みの理解をさらに深める形で、例えば「今後の年収」といった表現も「今後の平均年収」としたり、現状はバルーンヘルプという形で出てくるものも、入力に困ったときに解決できるような文言の見直しをできればと考えております。

こちらは、冬にユーザーテストをさらに行う予定であり、ここに対する効果検証はやっていこうと考えております。

ページをめくってください。

もう一つ、制度・仕組みの理解を深めるところで、今回、老齢基礎年金と老齢厚生年金を分けて表示させることを検討しております。

ページをめくってください。

続きまして、障害年金となります。

障害年金に関しては、右側、先生方にいろいろとお話をお聞きしました。

その中で、ターゲットとしてどういったところがいいかというと、ライフプランを考えている方であったり、永遠にもらえるわけではないというところ、あと、自分がもらえるかどうか、気になっているかというところで誤認・誤解をさせない、そしてシンプルに伝えることが大事というところで御意見をいただきました。

めくってください。

コンセプトとしては、こういった形でコンセプトを設定しております。

次のページに記載しているところが、基本的な制度。

特に会場調査の中に、受給額、受給要件に対する関心が高い結果となっていました。

受給額に対するところのヘルプであったり、受給要件という形をモーダルのウィンドウという形で表示させながら理解していただく形を考えています。

実際の表現は、この図と併せながら、もう少し工夫が必要と考えておりますが、今はこういった形で、理解を促せるような形で考えております。

ページをめくっていただいて、もう一つ大事な観点として、誤解・誤認をさせないシミュレーションを検討しております。

こちらは、左側のサンプル１～４という形でプロトタイプ、案を作成して、会場調査で意見をお聞きしました。

右上で、どの画面サンプルが試算結果を理解しやすいか。

その下で、一生涯もらえるような誤認・誤解をさせないといった観点でどれですかと聞いたところ、サンプル３で一定の評価が得られた形となりました。

なので、まずはサンプル３をベースに検討できればと考えております。

ページをめくってください。

こちらは、誤認・誤解させない形のシミュレーションです。

このページは、説明を割愛します。

最後に、iDeCoの観点の分析結果となります。

こちらで言うと、左上、ユーザーは積立て、運用するところ、あとは取崩しで受給するところのどちらに対しても高い関心を示していた結果になりました。

あと、その右側の「運用利回りの選択と誤認リスク」。

利回りの選択方法は、今は１％、３％、５％という形で、選択の方式でユーザーインタビューであったり、会場調査を行いました。

そちらに関しては、入力はしやすいという意見があったものの「信頼できる印象を受けた」であったり、例えば１％であれば、「このとおりもらえると思った」という形の感想もありました。

なので、利回りは、国の利益を保証するイメージを持たれるという誤認・誤解のリスクがあるところが結果として出たような形になります。

そこで、コンセプトとして、次のページをお願いします。

こういった形でコンセプトを検討できればと考えております。

続きまして、コンセプトの試作になります。

１つ目は、iDeCoの基本的な仕組みを理解させるところの記載で、特に右側は、先ほどもお話ししましたが、今回、運用に関するリスクを下のガイドという形で、画面上に明記することによって、リスク、誤認・誤解させない形で工夫しようかと考えておりますが、ここに関しては御意見をいただければと考えております。

ページをめくってください。

続きまして「シンプルかつ容易なシミュレーション」という形で、積立てと受け取りを両方の形でシミュレーションできるようなシミュレーション結果、グラフ表示の検討を考えております。

ページをめくってください。

最後は、左下で言うと、受給の金額のもらいか、取崩しなのか、受給金額のグラフは棒グラフなのかというところで、会場調査で意見を伺ったところ、結果として、拮抗した形のグラフとなりました。

なので、まずは両方のニーズがあるという形で、今、切り替える形で表示を検討しております。

ただ、こちらをすることによって、表示の情報量が多くなってしまうところ、あと、性能に少し懸念がありますので、ここに関しても、追って御意見いただければと考えております。

コンセプトとしては、以上となります。

○上田座長　それでは、続いて、事務局から特に御議論いただきたい事項について、御説明をお願いいたします。

○安濟年金広報企画室長　事務局でございます。

「次期公的年金シミュレーターの設計・開発について」の議論のポイントでございます。

障害年金、iDeCoの試算機能なのですが、３つのサンプルがございました。

この中で、サンプル３の評価が高いとアンケートでいただいておりますが、この３つの位置づけについて、どういったものが望ましいかについて、御意見をいただければ幸いでございます。

障害年金の受給見込みでございますが、こちらは、誤認をしないような見せ方を検討する必要がございますが、４つのサンプルの中で、サンプル３が有識者インタビュー、ユーザー調査の結果、評価が高かったのですが、こちらについても御意見を頂戴できればと考えてございます。

運用利回りについて、御自身で直接入力をさせるか、あらかじめこういった１％、３％、５％という形でお示しするかについて、御意見をいただければと考えてございます。

iDeCoの受け取り段階のグラフの示し方でございます。

こちらにつきましても、先ほどお話もありましたとおり、御意見をいただければと思っておりますが、この２つを切り替えられれば望ましいということなのですが、古い機種の場合では動作が重くなる可能性があることも踏まえて、どのような進め方がよいのかについて、御意見をいただければと思います。

直感的に操作でき、制度の理解にもつながる表示方法ということで、こちらに書いてありますような様々な工夫をしていく方向で考えておりますが、そのほか御意見がありましたら、御意見を頂戴できればと考えてございます。

以上でございます。

○上田座長　ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきまして、皆様から御意見、御質問をお受けいたしたいと思います。

ポイントが大きく４つぐらいありますので、まずは順番にやっていきたいと思います。

最初は、サンプル１～３の３つの表示のパターンです。

サンプル３がアンケートでは一番評価が高かったということですが、まず、これについて皆様から御意見をお願いできればと思います。

いかがでしょうか。

特に御意見はございませんか。

富田さん。

○富田構成員　東海大学の富田と申します。

大変すばらしいシミュレーターで、さらにパワーアップするということで、大変楽しみにしております。

このアンケートなのですが、誰を対象に取られたのかということをお聞きしたいと思いました。

現在、どのような利用者が、そもそもこのシミュレーターにどういう経路で訪れて、どのように使っているのかというデータが多分アクセス解析で明らかになっていると思うのですが、その辺りの情報も踏まえて、どういうプランが考えられるのか。

特に利用者が試算結果の表示に至らないケースも結構あると思うのです。簡単に言うと、離脱するタイミングです。その辺りの情報なども踏まえて、プランを考えていいのかなと。

アンケートを取ったとしても、そのアンケートを取った対象がウェブに詳しかったり、利用に慣れている方であれば、当然、サンプル３になるかもしれません。そうではない、例えば慣れていない高齢者の方や、場合によっては中学生、高校生とかが見たときに、どうなのかなというところが気になりました。

○株式会社 日立製作所　御質問いただきまして、ありがとうございます。

委託事業者のイシダと申します。

まず、御質問いただきました、今回、どのような方を対象にしたかなのですが、対象は男性・女性それぞれおりまして、年齢帯は20～69歳まで幅広く対象とさせていただきました。

地域も、都内を含め、１都３県ということで、幅広く321名の方を対象としております。

現状、公的年金シミュレーターのデータ分析なのですが、性別や年齢帯が個人情報というところもありまして、なかなか取れない仕組みになっておりますので、今回、定量調査は幅広い年代で、性別も幅広く取りまして、なおかつ、今回は公的年金シミュレーターをある程度触ったことのある方を対象とさせていただきました。

前回、あまり触ったことがない方の調査もしたのですが、あまり御意見が出なかったところもございましたので、利用されている方を対象として、今回、老齢年金、障害年金、iDeCoでそれぞれ御質問させていただいたところでございます。

○上田座長　よろしいでしょうか。

○富田構成員　ありがとうございます。

初めての人であればとにかくシンプルで、多分、経験のある方であれば、できる限り一覧性があって、いろいろな機能に直接アクセスできることを望むのが一般的だと思うので、どちらを取るのがいいのか、悩ましいところだなと思います。

○上田座長　それでは、よろしいですか。

山口先生、お願いします。

○山口構成員　御説明いただき、ありがとうございました。

非常にすばらしいものだし、また、利用者も多いものがさらにアップデートされるということで、楽しみにしております。

こちらの内容に関しては、先ほどの方と同じ意見でして、誰を対象にしたのかなと実は気になって、その結果をいただいたのですが、今回、利用者を対象に調査したということなのですが、利用者もすごく大切なのですが、まだ利用したことのない人の御意見も一緒にしたらよかったのではないかと感じました。

その上で、ただ、直感的には、一覧性があったほうが恐らく分かりやすいと私も感じるのです。

詳しくない人であっても、例えば障害年金やiDeCoというワードをそもそも知らなかっ

た場合には何とも言えないのですが、今回、入れるとなると、どうしてもどこかしらでそれらを表示しなければいけないと思うのです。

その中で、一覧性が高いほうが使いやすいという意見が出るのは、私としては非常にしっくりくる部分があるのです。

もちろん、制度的に結構違うものだったりもするので、そこへの作る側の抵抗感もあると思うのですが、一方で、使う側にとっては、それはかなりどうでもいい話でもあるのかなと思いますので、今回、老齢年金だけではなく、３つを用意することを前提にすると、サンプル３の評価が高いというのは納得感がありますし、そういった方向性で進めたほうが、私個人の意見としてはいいのではないかと感じた次第です。

私からは以上です。

○上田座長　何か御反応はございますか。

よろしいですか。

続いて、富永さん、お願いします。

富永さん、大丈夫ですか。

○富永構成員　大丈夫です。

茅ヶ崎の津波警報で避難して、今、駅の高台から参加しています。

御説明ありがとうございました。

これは、どれが一番いいかみたいなことではないのではないかと思うのです。

２つの観点があって、まず、厚労省の皆さんが年金制度をどのように国民に理解してほしいかということと、国民の側からしたときに、このシミュレーターをどんなタイミングで、どのように使うのかということですね。

前者は、厚労省の皆さんと私たちみたいな人で議論して決めればいいことであって、一覧性を持ったような形でコンプリヘンシブに理解してほしいのだったら、並んでいることが必要だし、それは本当に必要かなという気もするのですが、考え方によるのかなという気がします。

それから、後者のポイントですが、さっき河井先生もおっしゃっていた、単にSNSを使うのではなくて、どう使うのかが重要であるというのと同様に、このシミュレーターに消費者が触りに来るに至るまでの経路を、どのように想定しているかというようなことがまずあって、その文脈の中で自然かつ直感的に利用できるユーザーインターフェースがいいのではないかと思います。

なので、その観点からしても、単独でこれだけ聞き出してどうこうというよりは、コンテクスチュアルな声の聴き方をしたほうがいいのかなという気もしました。

全体的な話として、こういうものは、前もって精緻なユーザ経験を想定するのは極めて難しいので、このように作ると前もって決めて、そこに向かってひた走るのではなく、やってみて、試してもらってみて、フィードバックをもらってというのをどんどん重ねていく、その結果的にいいものが早くできるという作り方が望ましいと考えています。ですの

で、今、こうやって持ってきていただいているような話は、事前のプランニングに重きを置くのではなく、フィードバックサイクルを回すことに重きを置かれたほうがいいのではないかと思います。

以上です。

○上田座長　ありがとうございました。

ほかに御意見は。

では、上村先生。

○上村構成員　関西学院大学の上村です。

先ほど報告で、有識者の方は、老齢年金と障害年金と並列にiDeCoを並べるのは違和感があると。

多分、そこからこの議論がされているような気がするのですが、それは公的年金と私的年金の違いだからということだと思うのですが、ユーザーは、多分、サンプル３のほうが明らかに使いやすいわけですね。

だとすると、制度が違うのだという話をすると、例えば今、サンプル３は、老齢年金と障害年金とiDeCoが同じアイコンになっていますが、アイコンの形、もしくは色を変えるとか、そういう形で制度が違うのだということを意図するような仕掛けをここに入れると、少し緩和されるのではないかと思いました。

以上です。

○上田座長　ありがとうございます。

色とか形を変えるのはいいアイデアですね。

横川さん、どうぞ。

○横川構成員　御説明ありがとうございました。

今お話を伺って思ったことなのですが、制度自体を知らない方に向けてという意味で、もうちょっと用語の説明とかがあっても。プチ用語説明みたいな形で、ポップアップで出てきたりとかしてもいいのかなと思いました。

例えば「利回り」という言葉も出てきていますが、分かっている方もいらっしゃると思うのですが、その言葉自体を知らない方とかもいらっしゃるので、それがどういうことなのかみたいなところも書いてあるといいのではないかと思いました。

障害年金や老齢年金とかも、よく分からないままやっていらっしゃる方もいると思うので、説明はあったほうがいいのかなと思いました。

あと、私はセミナー等でこちらのシミュレーターを結構使わせていただいているのですが、一般の方は、お給料とか家計は月額単位で考えて暮らしているのです。

となったときに、年収の表示だけしかないのは、考えるに当たって、現実感があまり湧かないというような声をお聞きしたことがあるので、割る12をするのも多分手間だと思うので、月額単位という表示もあってもいいのかなと思いました。

以上です。

○上田座長　ありがとうございました。

確かに、生活設計は月額ですね。

ほかはいかがでしょうか。

河井先生。

○河井構成員　すごくナイーブな意見で恐縮なのですが、皆様のお話を聞くと、最初に使う方、何回も確認される方と両方いると思うのです。

何回も確認される方が、一々これは何とかですと言われても、むしろ面倒くさい、分かっているよみたいになるという話だとすると、最初に来られた方はまずここからみたいな水先案内をしてあげた上で、詳しい説明が欲しい方は、これをクリックしてください、タップしてくださいみたいな形にした上で、２回目でも不安な方はまた初めてを見るでしょうし、ある程度慣れている方については、最初からこちらから入れますみたいな形の水先案内みたいなものをどう使うのかみたいな発想で、全員が同じところから入らなくてはいけないということを考えなくてもいいのだろうと。

コンテクスチュアルな形の発想が大事だというと、どこから入ってきたかによってもまた違うはずなのです。

どういうところから入ってきた場合に、どの入り口になるのかみたいなところは、確かにシミュレーター単体の話ではなくて、広報全体の中でどう位置づけるのかみたいな議論にもつながるのかなと思いました。

ありがとうございます。

○上田座長　「初めての方はこちら」というようなボタンを作るとか、そんな感じですか。

○河井構成員　はい。

○上田座長　ありがとうございます。

ほかはよろしいでしょうか。

それでは、次に、障害年金のサンプル１～４がございまして、２番目の論点につきまして、皆様から御意見を頂戴いたしたいと思います。

いかがでしょうか。

漆原さん、どうぞ。

○漆原構成員　御説明ありがとうございました。

障害年金の相談の対応の際には、サンプル３を使うことが多いです。途中で等級が変動する可能性や、支給停止される可能性も障害年金の場合はありますので。

また、障害年金は、初診日や障害認定日によって受給額が決まるため、受給権を得た後に、働き方によって受給額が変わるものではないため、サンプル１やサンプル２というよりは、サンプル３のほうがいいかと考えております。

また、サンプル４だと、ぱっと見で入ってこないかとも思いました。

以上です。

○上田座長　ありがとうございます。

ほかの皆様、いかがでしょうか。

山口先生、どうぞ。

○山口構成員　ありがとうございました。

私もサンプル３がいいのではないかと思いまして、情報量として、サンプル１とかサンプル２に関しては、時系列の情報が入ってくるわけですね。サンプル２に関しては、さらにそこに統計の話とかもある。

一方で、サンプル３だと、かなり直感的に分かる。

数字やグラフとかは、そもそも多くの人はすごく苦手意識があって、それが出てくるだけで結構拒否反応とかも出てくるぐらいなのです。なので、できるだけシンプルなほうがいいと思っていて、サンプル３がいいかなと。

サンプル４は、先ほども御指摘があったとおり、見づらいので、やはりサンプル３がいいかなと感じました。

以上です。

○上田座長　ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

よろしいですか。

それでは、次はiDeCoです。

iDeCoについては、③の運用利回りの設定方法と④の受け取りの話を併せて御意見を承りたいと思います。

いかがでしょうか。

淺川先生、どうぞ。

○淺川構成員　蒲田高校の淺川です。よろしくお願いします。

まず、シミュレーター全体なのですが、入り口に、このシミュレーターがどういうものか、もう少し明示したほうがいいかと思います。

といいますのも、現行のページを開くと「公的年金シミュレーター」とあるのですが、実は年金シミュレーションを行っているページは、ほかにも幾つか民間企業さんもありまして、そういった中で、先ほど来ありました正確な情報を伝えていくという観点でも、この情報は、厚生労働省がこういった観点から情報を持っています、一方で、必ずしもこのとおりになるわけではないというように、最初の部分の入り口できちんとした情報を伝えるのは、学校現場で教材を使わせるときにも、必ず確認させるという観点から必要かなと思います。

今議題に出ているiDeCoの部分なのですが、先ほど受託業者の方から御説明いただきました運用利回りの下の部分に、利回りの値は利益を保証するものではないと注意書きがあるのですが、この記述をもうちょっと簡単にしていただけるといいのかなと思います。

ちょうど事前打合せの中でも出たのですが、厚生労働省がこの画面を扱っているということで、iDeCoは利回りが保証されるのではないかという誤解とか、こういった金融商品に

関してあまり知識がない、特に高校生などがこれを見ますと、１％とか３％という数値を見ますと、必ずこれが保証されると誤解されてしまう。

２段目の実際には運用する金融商品の成績に基づく値となりますという部分は、多分、高校生で理解できる生徒はそんなに多くないのではないかと。

大人だったら、ある程度社会的な経験もあるので、何となく理解できるのですが、高校生からすると、なかなか理解が難しいのかなというところで、ここの運用利回りの注意事項については、特に簡単といいましょうか、分かりやすい言葉で、なおかつ、注意を払うといいましょうか、必ず確認してほしいということで出していただければと。

あと、ここに「リスク」という言葉が出てくるのですが、いわゆる金融商品に関しての「リスク」という言葉は、それこそJ-FLECさんが御専門かと思いますが、ふだんの生活で使っている「リスク」という言葉とは意味が異なってくるところについても、高校現場では扱っているところと扱っていないところがあるのが現実です。

そういった意味で、先ほど分からない言葉について説明が出てくるようなというものがあったのですが、実現可能かどうかは分かりませんが、それこそJ-FLECさんのホームページとか、そういったほかの既存のものにリンクするような形で、さらに学習を深めていけるようなものがあるといいのかなと思いました。

以上です。

○上田座長　ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

では、私からよろしいですか。

あまり座長が発言してはいけないのかもしれませんが、今、淺川先生からもお話をいただいたのですが、利回り表示、特にリスクです。

収益の振れを「リスク」と言うところは、表現に非常に注意して当たる必要があるかと思っておりますし、前に金融庁のシミュレーションも、FPの方から色々なご意見が出たような経緯があって、本来であれば、例えばリターンが３％で、リスクが３％であれば、中心は３％で、０～６％の間で振れるとグラフで表現するほうがベターではないかと。

本来的には、グラフも幅を持って、こういう範囲に収まる確率が68％ですよというようなことを言うのが正解なのでしょうが、これをどうやってこの狭い画面に収めて表現するかは、かなり至難の業だと感じております。そこをどう工夫していくかが一つ論点としてあるかと思います。

あと、受け取りなのですが、今まで各金融機関とも資産の形成には非常に力を入れてきましたし、かつ、資産の形成のプロセスについては、議論が百出、大変様々な議論がされているのですが、取崩しはまだまだこれからというところだったと思います。

ただ、取崩しについては、これから65歳以降、積み上げた資産をどうやって使っていくかは非常に大切なポイントだと思っておりますので、このシミュレーションの中に取崩しを入れていただいたことは、大変よいことだと思っております。

ただ、取崩しの手法については、事前の打合せのときに申し上げたのですが、色々な見解があるようです。取り崩しの手法は定率法と定額法が知られていますが、識者によっては、例えば80歳までは定率法で、それ以降は定額法がいいとか、いろいろな議論がありますので、これから組み立てていかれる中で、そういった御意見をいろいろと参考にしていただいて、どういう取崩しのシミュレーションがベストか、いろいろと御検討いただければと思っております。

すみません。座長があまりしゃべってはいけないのですが、ほかにいかがでしょうか。

よろしいですか。

それでは、今まで全般、①～④まで論点を挙げていただきましたが、最後に⑤、その他ということで、全体を通じて、このシミュレーションについて、御意見、御質問がございましたら、お願いできればと思います。

いかがでしょうか。

お願いします。

○全国社会保険労務士会連合会 後藤様　ありがとうございます。

全国社会保険労務士会連合会副会長の後藤でございます。

私からは違う観点となりますが、中小企業の中では、実際、一般的に社員にはあまり見られていないようです。

一度、経営者の方にお願いして、従業員に見ていただき、使い勝手を調べていただけないか、30名程度の会社に話をしてみました。

そうすると、日頃、見ていないので、分かりづらいという意見がありました。

この公的年金シミュレーターはどのくらいの頻度で見ていただくことを想定していますでしょうか。

例えば株価は、日々変わりますので、常に見るようになります。そうすると、何となく使い方を覚えていきます。

しかし、このシミュレーターを見るのが、年１回程度となると、なかなか慣れないので、途中で挫折して、使うのをやめてしまうケースが多いのではないかと感じたところです。

私たち社労士は、使用者から従業員に対して使ってみてくださいとお伝えする立場でもありますので、そういう観点で壁があると感じたところでございます。

以上でございます。

○上田座長　ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

よろしゅうございますか。

それでは、事務局からどうぞ。

○菊地係長　本義について、何点か御質問をいただいておりますので、事務局からご回答します。

まず、公的年金シミュレーターに流入してくる経路の、約９割がねんきん定期便を通じ

てアクセスされています。

最近の傾向として、公的年金シミュレーターにアクセスされる方の特徴をご説明します。事務局で把握している公的年金シミュレーターへのアクセス件数と、メディアの報道を照らしてみると、日常の報道、例えば新聞やテレビの報道を視聴しアクセスされていることが分かります。

今回ご説明させていただいた、利用者調査の前提は、ファイナンシャルリテラシーとか公的年金制度について、どの程度御理解いただいているかを事前に測定し、また、公的年金シミュレーターに何回アクセスし操作したことがあるのかということも踏まえアンケートを実施した結果をご提示しているところです。

本日いただいた意見は、可能な限り開発に取り込みたいとは思っているのですが、他方で、このシミュレーターは、利用者のスマートフォンの中だけで演算しております。

このため、例えば高性能の機種をお使いの方であれば、いろいろなものが実現できるかと存じますが、メモリーが少ない機種を利用されていると、操作性が悪くなっていく等の点が想定されます。このようなハードのスペックの問題があり、動作保障している範囲の中で、可能な限り取り入れさせていただきます。

本日のご議論では、運用リスクの表示や、表現内容に対する誤認・誤解がないかという点をご懸念としていただいております。この点については、開発中のベータ版で、多くの利用者の皆様に、誤解・誤認がないか、丁寧に調査させていただく予定です。

これらを踏まえ、より分かりやすい表現、分かりやすい操作性が達成できるようなシミュレーターを受託事業者の皆さんと一緒に作ってまいりたいと思いますので、引き続きお気づきの点があれば、事務局にご助言をいただければありがたく思います。

どうぞよろしくお願いします。

○上田座長　ありがとうございました。

それでは、本日の御意見を踏まえまして、開発を進めていただければと思います。

なお、現時点では、今年の冬頃に開催する第22回「年金広報検討会」において、開発最終段階の次期公的年金シミュレーターを実際に御覧いただく予定になっているとお聞きしております。

それでは、次に、議題３の年金教育に進みたいと思います。

この議題では、まず、高校の教員である淺川先生、及びオブザーバーの全国家庭科教育協会の植村先生、宮田先生から、教育現場における年金教育に係る課題について、御説明をお願いいたしたいと思います。

それでは、まず、淺川先生からよろしくお願いいたします。

○淺川構成員　都立蒲田高校の淺川です。よろしくお願いいたします。

お手元の資料を御覧いただければと思うのですが、今回、この検討会に参加させていただきまして、私１人の意見ではなくて、できれば多くの先生方の意見を反映させたいと思いまして、公民科の先生方にアンケートを実施いたしました。

回答者の属性及び経験年数等に関しては、御覧のとおりです。

アンケートの集計結果及び分析のお話をさせていただきます。

次のページをお願いします。

まず、我々公民科で申し上げるところの公共という科目は、年間で大体２単位科目になりまして、文部科学省が想定している年間での時間は、大体70時間が想定されています。

ただ、70時間という時間が確保できることはほぼなくて、行事とか、様々な不測の事態が起こることによって、実際にはなかなか確保することができないのが現実です。

その中で、社会保障関係で取れる時間は、４分の３の学校においては３時間以下というのが結果としてありました。

文部科学省としても、公共の中では大項目Ａ～Ｃとある中で、大項目Ｂがかなりのボリュームがあるのですが、50時間の配当を想定していて、13のテーマを扱うことを想定しているので、３～４時間が限度ぐらいかなというところになっています。

次のスライドをお願いします。

現在、高等学校においては、公民科において、公共が１年生ないしは２年生で必修科目になりました。

現在はどの高校でも公共を学んでいるのですが、その中で、公共で何を扱っていますかと伺いますと､多くの学校で日本の社会保障制度に関してはもちろん扱っているのですが、公民科では制度面が中心の実態というのが改めて明らかになったと思っております。

現在の学習指導要領におきまして、日本の年金制度につきまして「自助」「共助」「公助」という言葉を使いながら、どう備えるか、考えていきましょうということが、今までの「現代社会」や「政治経済」とは異なって、初めて盛り込まれたのですが、一方で、教科書の中で、いわゆる自助、自ら備えていくとか、さらに個人ベースで主に老後とか、人生のリスクにどう備えていくのかということを公民科で扱っている教科書は、そんなに多くないのが現実となっています。

実際、授業の中で扱うのは、日本の年金制度のみしか扱わないような方もいらっしゃいました。

次のスライドをお願いします。

課題としてどんなことがありますかというのは、これはどの教員も口をそろえておっしゃるのが、扱う時間数が不足しているところもありましたが、一方で、授業をする側の知識不足も約４割の先生､情報の入手の難しさも約３割の先生が課題と考えていらっしゃる。

また、家庭科の先生とのすみ分けも難しい。

よく外部の方から聞かれるのが、校内で公民科の先生と家庭科の先生が、いわゆる情報共有をしながら、これは公民科で扱います、これは家庭科で扱いますと分けないのですかと伺われるのですが、学校の現状によりけりというのが正直なところで、平たく申し上げますと、公民科の先生と家庭科の先生の仲がよければ、それは行われますが、仲が悪いと会話もしない。

そのようなこともありますので、その部分は、外部の方から見る以上に、高校においては、教科の壁が非常に高いのが現実になっています。

この後、恐らく、家庭科からもあるかと思うのですが、家庭科としても、衣食住、様々なことを扱う中で、そこまで扱う時間がない中で、個人としてどう備えるのか、公民科からは家庭科が扱うのでしょう、家庭科からは公民科が扱うのでしょうというように、お互いにボールを投げ合っていて、結局、扱わずに終わってしまう現実があると思います。

次のスライドをお願いします。

次のスライドには、その他の様々な課題ということで出していただきました。

黒ポツの上から３つ目、正しい情報を伝えたいのだけれども、情報が分かりやすく整理されておらず、教えるのが難しい。

どうしてもこういった制度は、頻繁とは言いませんが、変わることがありますので、それを我々も追いかけていかなくてはいけない。

もちろん、それは私たち教育現場の人間として、きちんと追いかけていかなくてはいけないのですが、私たちは当たり前ですが、社会保障を教えているだけではないので、様々な分野に関してどんどん追いかけていかなくてはいけないので、なかなかその部分に手が届かなくなってしまうのが現実です。

次のスライドをお願いします。

今度は、先ほど来お話が出ています公的年金シミュレーターを使ったことがありますかということで質問させていただきましたところ、使ったことがあるという方はそんなに多くなかったのですが、ぜひ使いたいという方がかなり多かったと思います。

公的年金シミュレーターは、今回の改定の中で出てきました、分かりやすくとか、視覚的にいろいろな情報を伝えていくのは、皆様御承知のとおり、今、本当にいろいろな情報が氾濫している中で、正しい情報をきちんと生徒に学ばせていくことがすごく難しくなっている時代です。

そういった中で、こういった制度があるのはありがたいという先生方が多かったです。

次のスライドをお願いします。

公民科に関する教材として課題と感じている内容を全て挙げてくださいということで出していただいたのですが、多かったのは教材の多さ、それによる飽和状態と、教材の内容と教育現場のずれに対して、約半数が課題を感じていると回答されました。

教材の多さに関しては、前回のこの部会でも申し上げましたが、本当にいろいろな教材を作っていただくのはありがたいことなのですが、教育現場としては、それを消化し切れていない。

教材がどんどん増える一方で、どの教材を扱えばいいのか分からない、優先順位をどうつけたらいいのか分からないといったように、学校現場にいますと、本当にいろいろなところからデータベースにしても、紙ベースにしても、いろいろな教材が来るのですが、果たしてどれを扱ったらいいのだろうというのが分からなくなってしまう。

さらに、教材の内容と教育現場のずれに関しては、次のスライドで御説明するのですが、次のスライドをお願いします。

教材に関して申し上げますと、多くの教材は、こういった教材を作りました、実際に、いわゆる授業ではこう扱いますという形で作っていただけるのですが、多くが50分の授業を想定して作られることがあるのですが、先ほども申し上げましたように、いろいろな教材があり、年間の授業時間数も限られている中で、50分かけて全て扱うことはほぼ無理な状態です。

そういった中で、教材やワークを一部分だけで切り取っても授業で使えるようになっていると、活用の幅が広がるのではないかとか、１時間単発であったり、５分、10分の単位で使える教材があるとありがたいのではないかと。

また、教材そのものの内容としても、ほかの教材と重複している部分がかなり多いところもあるので、その部分の重複を解消してもらえるとありがたいというような御意見もありました。

次のスライドをお願いします。

次のスライドが【年金制度に関する「広報」に対する意見、要望】となっています。

全部読み上げていると、時間がありませんので、また御確認いただければと思うのですが、特に黒ポツの上から３つ目の部分で、年金制度を維持するためには、国民の負担はどうしても必要なのだけれども、どうしても負担は少なく、保障を厚くといったような誰しも望むようなものを考えてしまう。そういった楽をして保障してもらえるような、そんな甘いものはないのです。

よくJ-FLECさん等の金融教育の現場でも、楽をしてもうかる、いわゆるノーリスク・ハイリターンなどはないのだよと言うのですが、同じように、年金においてもそういったものはないのだよということをしっかりと伝えたいのだけれども、どうすれば伝わるかというところです。

次のスライドをお願いします。

最後に、これに関しては、本会にはあまり直接的に関係ない部分もあるかもしれませんが【出前授業に対する意見、要望】ということで、このスライドと、もう一枚、次のスライドと、３枚のスライドにわたりまして載せさせていただきました。

これに関しましても、御確認いただければと思うのですが、特に外部の方々が思われている以上に、学校現場は、今、よく「忙しい」という表現を使われるのですが、私は「忙しい」という表現はあまり適切ではないと思っていまして「忙しい」というよりも「余裕がない」と言ったほうが正確な表現だろうと思っています。

もちろん、教科の指導もそうですが、それ以外にも、今、様々な課題に対応しなくてはいけない教育現場の中で、出前授業というときに、そこに対応するような余裕がなかなかないとか、そのためには外部の方とも打合せをしたいのだけれども、その時間もなかなか取れないといったような声が寄せられました。

最後のスライドを御覧ください。

その次になります。

ありがとうございます。

一応、私のほうで考察ということで書かせていただきました。

３点書かせていただいたのですが、１点目が、公民科の年金教育に関しての課題といいましょうか、これは家庭科も関係すると思うのですが、個人の備えとか、個人ベースで考えることがなかなかできていない点。

さらには、教材に関して飽和状態であることと、教材と現場のニーズが乖離している点があること。

３点目が、そういった外部機関による出前授業も、現場のニーズに合っていない事象が生じるがゆえに、もういいやということで敬遠されてしまうことも起こっているという３点をまとめさせていただきました。

以上、今回、アンケートを取らせていただきました結果について、御報告申し上げます。

以上です。

○上田座長　ありがとうございました。

現場感あふれる、大変すばらしいお話だったと思います。

続きまして、全国家庭科教育協会さんから御説明をお願いいたします。

○全国家庭科教育協会 宮田様　ただいま御紹介にあずかりました、全国家庭科教育協会の常任理事、植村と宮田でございます。

本日は、宮田が代表して御説明いたします。

先ほどの公民科の御説明にあったアンケートとは収集した情報量が異なりますが、我々２人の意見ではなく、全国家庭科教育協会で常任理事をしている小学校、中学校、高等学校の家庭科教員、それから大学で家庭科教員養成や家庭科の教育研究をされている先生方に、年金教育の現状をお聞きした内容をまとめましたので、これから説明したいと思います。

私ども２人の見解の場合は、そのように断った上で発言させていただきます。

資料４－２のp. ２をお願いいたします。

４月の検討会におきまして、家庭科では、高等学校で年金を扱っていると説明させていただきました。

そこで、まずは高等学校において、家庭科教育の中で、年金教育がどのように位置づけられているかを改めて御説明いたします。

４月の説明と重複いたしますが、家庭科の検定教科書では、年金は「高齢期の生活と福祉」を扱う領域の中に盛り込まれております。

しかし、多くの家庭科教員は、年金をより実生活に根差した学習内容とするために「生活設計」という領域の中で位置づけたいと考えており、年金を単なる制度ではなく、リスクへの備え、あるいはライフプランニングの一部として教えるために、個々人で工夫しな

がら対応しているのが現状です。

また、参考までに、家庭科では、お金にまつわる学習を小学校から行っていることや、児童生徒の発達段階に合わせた学習内容になっていることをお示しいたしました。このように見ていきますと、社会人としての生活を間近に控えた高等学校では、より実践的で具体的な学習が必要であることが分かるのではないでしょうか。

しかし、年金制度は、個人の生活設計の一部としての視点と、社会の一員としての役割・理念を学習する視点の全く異なった２つの視点があるため、公民科でもそうなのですが、限られた授業時間の中でバランスよく伝えることは非常に難しいと感じております。

次に、生徒たちは年金をどのように捉えているのかを紹介したいと思います。資料４－２のp.３では「生徒が抱える年金制度への不信感」をお伝えいたします。

授業をしていますと、このような声が真っ先に聞こえてきます。「どうせ自分たちの時代にはもらえないんでしょ」「払っても損するだけじゃないの」。こうした疑問に答えられるような授業を行うことが必要なのは重々承知しておりますが、このような捉え方をしている生徒に対して、単に制度を説明するだけでは自分のこととして響いていきません。そして、自分の未来の話として実感させることもなかなか難しいのが現状です。このような悩みを抱えている家庭科教員が少なくないことを御理解いただきたいと思います。

また、先ほど授業時間数が限られているとお話ししましたが、この点ももう少し説明いたします。多くの高等学校では、家庭科は「家庭基礎」と呼ばれる週２時間を１年間展開する科目を開講しております。資料に示しておりませんが、これとは別に「家庭総合」という科目を開講し週２時間を２年間にわたって展開するような家庭科を行っている高校もあるのですが、ごく僅かです。

扱っている領域は、衣食住と（家庭科として）一般的に捉えられているものとそれ以外のものがあります。衣食住をマネジメントしていくいわゆる家事と呼ばれるものを家庭の機能と捉えて話すのですが、そこではどうしても家族の話をしなければなりません。家庭科では民法の話から始まり、民法の変遷から、家族構成がどう変わるのか、世帯構成がどう変わるのか、単独世帯が多くなっているから、家事が困っているね、などという話も含めて行っていきます。さらに、家族の中に、今度は福祉として子供の話、高齢者の話、最後に家計の話といったものまで含まれ、結果的に生活にまつわる領域全てを扱っているのです。先ほどの公民科同様、文部科学省は70時間を想定してこれら全ての領域を出してきているのですが、現状ではそれを50時間程度で行わなければならず、必然的に優先順位をつけて扱わざるを得ません。実際に年金教育に充てられている時間は１時間、多くて２時間が現状です。したがって、効果的な教材の存在が必要不可欠と考えております。

次のスライド(注:資料４－２のp.４は著作権の関係で公開資料には含まれません)には、２つの教科書会社の教科書に掲載されたグラフを引用しました。

いずれも賃金を示したものです。

一番左側（注：図３「女性が就業を継続・中断した場合の賃金比較」,『家庭基礎 自立・

共生・創造』，p193，東京書籍）は「女性が就業を継続・中断した場合の賃金比較」。

真ん中（注：図４「賃金の年齢カーブ（男女・雇用形態別、時給）」，『家庭基礎 自立・共生・創造』，p193，東京書籍）は、性別や雇用条件の違いによる賃金の年齢カーブ。

一番右（注：図５「生涯賃金の比較（2022年）」，『家庭基礎 つながる暮らし 共に創る未来』，p15，教育図書）は、性別、雇用条件の違いによる生涯賃金の比較になります。

このようなグラフは、我々家庭科教員にとっては、働き方の違いによってどのぐらいの年齢でどのぐらいの賃金を収入として得られるかということを「見える化」して示すことができるため、働き方を含めた将来像を生徒に想像させるのに活用しやすい資料の例と言えます。この検討会で話題に上っている年金が、収入が減ってきてから重要な意味を持つとするのであれば、この続きのグラフとして「見える化」したものがあると、生徒が自分事として捉えることが可能になるのではないかという意見が出ております。

では、年金に関する教材について、家庭科教員はどのような印象を持っているかを、資料４－２のp．５で示しました。

既存の教材につきましては、大変申し訳ないのですが、文字が多くて、捉えにくいと感じております。そもそも生徒は、先ほど示したように、年金に対してかなり偏見を持っておりますので、限られた時間で正しく理解させるには、３ステップ程度で理解できるような簡潔なものが望ましいのではないでしょうか。

また、現在の年金シミュレーターの話は、先ほど紹介していただいたところで申し訳ないのですが、個人の収入・支出の試算が中心となっております。どここまで話しているとおり家庭科では世帯で捉えて話をしていくところがありますので、世帯全体で見た家計の視点があるとよりありがたいと思います。世帯全体で見た場合、世帯構成、働き方など、パターンが多様化しますので、シミュレーションが難しいことは重々承知しているのですが、実生活になぞらえていくためには、個人の個計ではなく、世帯の家計として捉える視点が我々家庭科には必要だと感じております。結果的に、収入に関して、将来像が見通しにくいことがありますので、現時点のシミュレーターでは、自分には関係ないかもと生徒が感じる可能性は否定できません。

資料４－２のp．６にてこれまでの話をまとめますと、家庭科教員が年金教育を行う際に期待したい教材は、箇条書きの最後の項目になりますが「生徒自身が主体的に将来を考えるための『ツール』」になります。

具体的には、上２つの項目として示しましたが、どのような働き方、家族構成であれば、65歳以降にどのぐらいの金額をもらえるのか、どのような生活ができそうかといったことが見通せるような教材です。

そして、高等学校も様々な学校があります。先ほどカリキュラムで週２時間を１年間、あるいは週２時間を２年間と選べる状況になっていると申しましたが、それ以外に授業の進め方なども異なってきますので、カリキュラムや進度に合わせて教員が取捨選択して用いることができるような、モジュール型の柔軟な教材であることが、限られた時間を効果

的に活用していくためには必要だと考えております。

以上です。

○上田座長　ありがとうございました。

現場感あふれる発表をありがとうございました。

それでは、大変僭越でございますが、私も、大学での授業の経験も踏まえまして、簡単にコメントさせていただければと思います。

まず、高校の社会保障教育につきましては、私も何度か高校の出張授業に行った経験がございまして、高校の授業時間の50分という大学の授業のちょうど約半分ぐらいの時間に収めることもなかなか大変なのですが、年金をテーマとした授業後に、自由意見を書いていただくと、不安が解けたとか、誤解が解けたという意見が多くて、十分にやる価値はあるのだろうと感じました。

一番よかったと思うのは、「今日、おうちに帰って、お母さんと年金の話をしてみます」という自由記述でした。家庭に帰って、それを家庭の話題にしていただくことが非常にいい結果だったのかなと思っています。

一方、テキストに関しては、私個人の感想ですが、以前、高校の公共と家庭科の教科書、公共４社、家庭科２社を分析してみたことがあるのですが、教科書会社によって、書いている文量とか内容が相当違っていました。

中には、大変言いにくいことなのですが、表示してある図が制度改正があったのに、それが反映されていないというものもありました。

具体的には、iDeCoの適用範囲が制度改正前になっているとか、そういう図があったので、その辺りは、これから要改良なのかなと思いました。

それから、大学ですが、私は今、３年生に社会保険論という科目を持って教えております。

前期、年金をテーマとしたのですが、前記の最終授業で簡単なリアクションペーパーで感想を書いていただくと、一つは、４年生が書いてきたのですが、「社会に出る前にこの話を聞けてよかった。給与明細を見たときに、なぜ厚生年金保険料が引かれているのかは、意味があらかじめ分かったことが大きかった」という感想が印象に残りました。

あと、３年生からは、「一方的に取られるだけだと思っていたけれども、自分たちにも恩恵がある部分があるのを知って、よかった」という感想もありました。

このような感想がありますと、大学でこういう年金教育をやる意味は、十分にあると思います。

ただ、あえて言うと、年金教育を受ける機会があるので社会科学系の学生に限られているということです。

法学部は多分、社会保障法という授業があると思いますし、経済学部に行くと、社会保険論とか社会福祉論という授業がありますので、社会科学系の学生は、何かしら触れる機会はあるのですが、人文系の学生、あるいは理系の学生の方は、全くこういう機会なく、

社会に出てくることになるのではないかと。これは、何かしら大学の間に触れる機会があったほうがいいのではないかと思いました。

帝京大学で、何年前でしたか、年金局の方と連携して、卒業式の前に、４年生向けに、希望者だけ集めて、給与明細の見方とか、年金、医療という公的な支援があるのだよという話をした機会があったのですが、これが大変大好評でございまして、まさにいろいろな学部の方が集まっている中でやったのですが、こういう社会に出る前に、最低限の社会保障に関する知識を得ていただく機会をつくることは、非常に重要かなと思っています。

あと、社会人になった後については、私的年金について言えば、DBだと、資産運用は会社と運用機関がやってくれますので、特に教育の機会を作る必要はないのかもしれません。

一方で、企業型DCを入れている企業であれば、最低限導入時に教育をやると思います。

ただ、企業のスタンスによって、みっちり２時間、少なくとも制度と運用についてセミナーをやる会社もあれば、他方で、動画を１時間半流して終わりという会社もあるようです。

企業のスタンスによって、教育の濃さとか機会に相当差が出てきていると感じています。

ただ、企業においても、最近は人への投資が非常に注目されていますし、一部の識者も、人への投資の中に年金を入れるべきなのではないか、その処遇の一つとして、年金があってもいいのではないかという指摘がありましたので、これはまさにそのとおりかなと思っています。

あとは、少なくとも企業に勤務すれば、このような機会があるのですが、自営業とかパートの方、要は国民年金の１号被保険者の方にどうやってこういう機会を提供するのか。この辺りが課題かなと思っています。

あとは、次のページなのですが「高校」「大学」「社会人」と分けてみますと、例えば企業の方は、高校、大学にどういったものを期待しているのか。例えば新入社員が入ってくるときに、最低限ここまでは知っておいてほしいというものが多分あると思うのです。

この辺りを明確にするのと、高大接続と最近よく言われていますが、高校でここまでやったから、大学はここからでいいのではないか、大学で最低限ここまでやったから、社会人になったらここから先でいいと。こういう高校、大学、企業の社会人の連携というか、役割分担というか、こういったことが必要になってくるのではないかと思っています。

今日、まさにたまたま高校の先生、大学の先生、企業と接している社労士の方の３者が集まっているので、役割分担を明確にして、打ち出していくものを明確にする機会が必要なのではないかと思っております。

次のスライドをお願いいたします。

あと、もうちょっと大きなことを考えると、こういう社会保障に関する大きな見取図が必要なのではないかと。

その大きな見取図の中で、老後の所得保障はこの部分で、公的年金はこれで、私的年金はこれですよと、大きな見取図の中で位置づけてお話をしていくことが必要なのではない

かと個人的に考えています。

具体的に言いますと、例えばこれも本来的には、先ほど河井先生や上村先生から御指摘があったと思いますが、そもそも公的な部分でどこまでカバーする必要があるのか、あるいはどこまでカバーされているのか。その範囲が決まってくれば、次の個人で対応する部分が決まってきます。

ただ、一方で、それだけではなくて、ふだんの生活、あるいは老後を考えると、医療とか介護も関係してきますね。

非常に体調が悪い方、病気をされている方であれば、ここの部分が非常に大きくなってきて、その部分、所得の保障も手厚くなければいけない。こういう所得保障と医療と介護との間の連携、あるいは公的と私的な部分の連携とか、こういうマトリックスの中で役割を認識する必要があるのではないかと感じております。

私の拙い経験で二、三、申し上げますと、これを考えたのは、私が金融機関に勤めているときに、淡路島の山奥にある航空機の部品を作っている会社にお邪魔したことがあるのですが、タクシーで淡路島の山の中に入っていくと、いきなり輸送機や戦闘機とか、軽飛行機の実物が置いてある大きな工場が目に入ってくるのです。

その社長さんに、大変だったでしょう、何でこんなに飛行機が置いてあるのですかと言ったら、うちの従業員は、この中の部品を作っているだけなのだけれども、これが大きな飛行機の中のここにあって、全体の中で大事なここの部分を担っているのだぞと。これを認識させるには、全体を俯瞰できるような実物を置くのが一番いいということでした。なるほどなと思ったのです。

私が大学で受け持つ社会保険論で、今の３年生、４年生に年金の大切さを理解させるのはなかなか大変でございまして、一つは、そういうときに必ず話をするのは、学生無年金訴訟についてです。これは、国民年金が学生はまだ任意で加入の時代の話なのですが、加入していない学生さんが、事故で大きな障害を負ったのですが、社会保険ですから、加入していないので障害年金が出ないということになります。

それで障害を負った元学生が訴えを起こし、最高裁まで行って、結局、その訴えは退けられたのですが、その後「特別障害給付金」という形で公的な支援はありました。しかし、加入していないと給付は出ないのだよと、社会保険の原理を説明するのに非常にいい題材なので、こういったものを例えば高校の教科書のコラム的なものに入れていただくとか。

あと、医療の話をすると、学生も身近に感じるので、医療と一緒にお話しすると、社会保険の必要性が理解されやすいかなと感じています。

そのときよくお話しするのは、アメリカと日本を比較して、いかに日本は恵まれて、手厚いかということです。

以前、『ER』という医療ドラマがあったのですが、御存じでしょうか。

アメリカのシカゴの病院の研修医の話なのですが、私もテレビを見ていて非常にショックだったのは、救急車で運ばれてきて、手術台の上に、血がどくどく流れる患者が寝てい

るのに、お医者さんが手術室の電話から保険会社に電話するのです。

要は、医療保険は民間保険が主体なので、その患者がどの保険に入っているかによって、施術の範囲が変わってくるという話をして、日本の国民皆保険制度はすごく恵まれているのだよという話をすると、みんな、なるほどな、確かにお医者さんのことを考えると、それはあるねという感想が非常にたくさん出てくるのです。

そんなものをコラム的に入れていただくと、学生にも強く必要性を認識していただけるのではないかと思っています。

大きな見取図の中で、公的年金と私的年金はこの位置ですよという大きな、見取図が要るのではないかというのが私の感想でございます。

すみません。長々と発言させていただきまして、ありがとうございました。

それでは、本議題につきまして、皆様から御意見を承りたいと思います。

いかがでしょうか。

上村先生。

○上村構成員　関西学院大学の上村です。

高校の現場がこういうことになっているという御苦労をお聞きして、本当にありがとうございます。

私も高校３年生の息子がいまして、しかも理系なので、ちゃんと言わないといけないなと思いながら聞いてまいりました。

私自身も、大学で財政を教えているのですが、冒頭、私が申し上げたように、今、上田先生も言われたのですが、そもそも年金制度の存在意義をきっちりと教えることがとても重要なのではないかとずっと思っています。

そうすると、難しいのは、トップダウン的に教えるのか、ボトムアップ的に教えるのかと、教育には多分、２つのアプローチがあって、大学だと、大きな講義はトップダウン式に教えるのですが、ゼミとかだとクラス単位なので、ボトムアップですね。

ボトムアップ的に教えるチャンスがあるのだったら、なぜ公的年金が必要なのかというところを議論していただくことがとても重要かなと。ワークショップ型ですね。

そのときに参考になるのは、ロールズという哲学者がいまして『正義論』という本を書いているのですが『正義論』の中に「無知のヴェール」という話があって「無知のヴェール」とは、次の社会をつくる人たちを選んで、その人たちの立場や年齢、収入、資産とか全てを剝ぎ取って、つまり、ないものとして考えて、明日から新しい社会をつくるときに、どういう社会をつくりますかと問いかけて議論させるのです。

そうすると、普通にディスカッションすると、公的年金制度のような社会保障制度は必要だということになるのです。なぜかというと「無知のヴェール」なので、自分が明日から何歳になるか、分からないのです。

というように、要は、自分個人の話ではなくて、社会をどうつくるのだということをまず問いかけて、ワークショップ型にやっていくと、自分事ではなくて、社会、自分たち事

になるということです。そのような仕掛けをワークショップでやる必要があるのかなと思いました。

こういう話は、実は今、いろいろな地域でやられていて、例えば有名なのは、岩手県の矢巾町でフューチャーデザインという仕掛けで、これは水道料金のことをやったのですが、はっぴを来た未来人の人たちと現代人が議論して、未来人の人たちは水道を守ってほしいから、今すぐに水道料金を上げてほしいと言っている。はっぴを来た人たちは、未来人として語りなさいというワークショップをしているのです。

という形で、何か仕掛けをつくって、年金制度の制度の話というよりは、制度が必要なのだというような教育のやり方は結構重要かなと思いました。

以上です。

○上田座長　ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

どうぞ。

○金融経済教育推進機構 岩渕様　金融経済教育推進機構（J-FLEC）の岩渕と申します。

今のお三方のお話は非常に参考になるところが多かったです。

御承知のとおり、金融経済教育は、言ってみればより幅広い分野を対象にしておりますので、限られた授業数の中でやっていただく難しさを我々も実感しております。一方で、やってみると、本当にためになったといった評価もいただいているので、我々としても頑張らなくてはいけないと思っているところでございます。

それから、上田先生からお話があった企業・職域向けについても、今、人的資本経営とか従業員のファイナンシャル・ウェルビーイングといった観点で非常に注目されていて、私どももそこにも御協力したいと思っております。DC事業者についての継続教育は、上田先生のお話のとおり、事業者としてやってはいるのだけれども従業員に届いていないところが多く、その分野についても我々としてお手伝いしたいと思っているところでございます。

今のお話を踏まえ、私どもでやっている学校向けの取組を一つだけ御紹介させていただくと、もちろん、児童・生徒向けの教育もやっているのですが、先生方御自身に対して金融リテラシーを身につけてほしいという取組もしております。具体的には、教職員向けのオンラインセミナーを開いたり、学校からの先生方向けの講師派遣の申込みに対応しております。

これは、先生方御自身が金融リテラシーを身につけて、主体的に問題意識を持ってもらい、それを児童・生徒に実践してほしいといった意識で申し込んでくださる学校が、まだ限られてはいますがいらっしゃいますので、ぜひ応援していきたいと思っております。先生方のハードルをまた上げるような話にはなってしまうと思うのですが、そういった形で先生方に意識を持っていただくことも重要ということで、取り組んでいる次第です。

以上です。

○上田座長　ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

富永さん、お願いします。

○富永構成員　ありがとうございます。

今の３つのお話はすごくインパクトがあるのですが、どれも共通しているのが、お金を払うのは少なければ少ないほうがよくて、もらうのはできるだけもらいたいという非常に利己的な価値観みたいなことがベースにあるのだなと感じたのです。価値観というか、マインドセットかな。

一方で、利己の逆、つまり、利他とか知足みたいなことは、人間が幸福になっていくための心のありようの必要条件みたいなことで、年金という仕組みの思想の根底に流れているものだと思います。なので本質的な制度理解促進のためには、制度やベネフィットの啓蒙だけでなく、これらのマインドセットをいかに広げていくか、ということとセットで考えないと難しいかな、と感じました。

それから、大昔に『シムシティ』というゲームがはやっていました。私もやっていたのですが、これは為政者の立場で都市をどんどん造っていくゲームでした。

ビルを造ったりすると、お金が足りなくなるので、増税したりすると、今度は暴動が起きたりして、本当に為政者は大変だと思ったりしたのですが、そのように少なくとも物を作っていく為政者の立場、制度設計者の立場で考えるような視点を一回経験されると、こういった存在理由みたいなものが分かりやすくなるのかなと思いますので、そういうことも検討されればいいなと思いました。

以上です。

○上田座長　ありがとうございました。

富田先生、どうぞ。

○富田構成員　東海大学の富田です。

大学の現状について、一事例ですが、お伝えしたいと思います。大学は、年金教育を単体で教える時間を作るのはなかなか難しいという印象があります。そのため、大学の学生生活の中に埋め込んでいくことが求められるのかなと思います。特に、大学生は自分で学ぶことができる年齢になっていると思いますので、それを前提とした教育を考えなくてはいけないかと思っています。

そこで、学生生活の中で２つ適したタイミングがあると思いました。１つ目は、入学時のタイミングです。大学では４月になると入学ガイダンスを開催する可能性が高いと思います。その際にいろいろな紙の資料を配布します。

恐らく、大学の教務課が中心になって、そのようなガイダンスを実施すると思うのですが、そこと連携しながら、学生納付特例とは何なのかということを説明するようなチラシや、場合によっては動画説明のアドレスなどを配布するタイミングがありそうかと思いました。

もう一つがキャリア教育の機会です。

大学でも、学生に対するキャリア教育、キャリア形成の支援を全学的にしていると思います。そのときに「年金教育」とせずに、そもそもキャリアをどうやって築いていくかを教えることが大切だと思います。仕事をするとは何か、収入を得るとは何か、場合によっては仕事ができなくなるときとか、仕事を終えるときなど、人生そのものについて考える。そして、キャリアについて考える中で年金について考える。このような、スコープを広げたキャリア教育は極めて重要だと思います。大学にはキャリア支援センターなどの就職支援をする部署がありますので、そこと連携してみる可能性はないでしょうか。就職支援が主催するキャリアガイダンスが２年生とか３年生対象に全学生に行われたりしておりますので、そこでも動画とかのアドレス紹介や、場合によっては特別レクチャーという形で関わっていく可能性がもしかしたらあるかなと思いました。

○上田座長　ありがとうございました。

大学生も、20歳で、国民年金に入るタイミングでこういう話を出すと、非常に響くようですね。

大学２年か３年の機会が一つまたポイントかなと個人的にも感じています。

ほかはよろしいでしょうか。

山口先生、お願いします。

○山口構成員　ありがとうございます。国際大学の山口です。

御説明いただき、大変ありがとうございました。非常に勉強になる内容でした。

私からは、教材について、１つコメントさせていただきます。

私も、青少年のネット利用とか、フェイク情報などのテーマで、総務省さんとか文科省さんと様々な啓発教育教材を作っています。

それは形式も様々で、講座資料だったり、動画だったりするのですが、一方で、調査をすると、例えば青少年のネット利用に関して、どんな啓発教材があるかは、今年発表した報告書の中で、ひとつそういった調査をやっているのですが、本当に様々な啓発教育教材があるのです。青少年のネット利用というテーマだけで非常に存在していると。しまいには、基礎自治体レベルで大量に作ったり、そういった形で非常に多くの教材が既にあるのだなと感じたのです。

この状態は、使う側がどれを使っていいのか、分からないということだけではなくて、そもそも社会全体のコストとして相当無駄もあるなと感じました。

これは何でそうなるかは分かりやすくて、取りあえず教材を作ったことは分かりやすい成果になるので、その後、それがどれぐらい活用されるかということよりも、作ることに重きが置かれがち。とりわけ、公的機関、官公庁とかはそういったことになりがちだなと私は感じています。

今日、お話に出たように、例えば10分で分かる教材とか、もっと文字数が少ない分かりやすいものとか、そういったニーズは引き続きありますので、新たな制作ということもあ

るのでしょうが、どちらかといえば、今、配信方法の工夫が求められているのではないかと思うのです。

つまり、例えばあるポータルサイト、年金教材ポータルサイトでも、何でもいいのですが、ポータルサイトを作って、そこに行くと、官民のあらゆる教材がある程度スクリーニングされた状態であると。時間や学年とかを指定すると、検索がすぐにできてテキストや教材が出てくる。

そういったように、まず、ポータルサイトを作ること。そして、その検索性を非常に高めること。さらに、それが官民連携であること。こういったものを作ることが今、物すごく求められているのではないかと思うのです。

ですから、そこに載せるのは、ある一つの組織のものや、官公庁のものだけではなくて、ぜひ民間も様々な面白いものを作っていますので、そういったものも含めて、そこに行けば教材がある。それを先生方がすぐに活用できる。それこそ教師用ガイドラインとかもあったほうがいいと思うのですが、そういった状態になっているとなおよいと感じた次第です。

私からは以上です。ありがとうございます。

○上田座長　ありがとうございました。

どうぞ。

○河井構成員　今までの流れと違う話になるかもしれませんが、今日の話は、とにかく学校現場は余裕がありません。

今日、年金についてしゃべっていますが、私は厚労省関係だと、大麻の乱用防止とかにも関わっているのですが、それも学校で教えなくてはいけないみたいな話になるのです。

教えなくてはいけないことばかりで、ほとんど無理なのだろうと思っていると、先ほど山口先生がおっしゃった、５分とか10分で分かるものだけでもいいのではないかと。

詳しいこととか、社会の在り方がどうあるべきかみたいなところを教えるのではなくて、これはよくないことかもしれませんが、もっとあなたにとって得なのか、損なのかみたいなところがすごく大事。そういうものがすごく響くのだろうと思います。年金シミュレーターに引っ張り込んでしまう。年金シミュレーターに行きましょうみたいな話にする。

だけれども、先ほど申し上げたように、直接シミュレーターに入ってしまうのではなくて、最初の水先案内で初めて使う方とか、年金がよく分からない方、もっと知りたい方みたいな形になっている。

もっと知りたい方みたいなところは、今、御提案があったような年金教育ポータル的な発想になる。

あるいは厚労省さんがすごくいいなと思うのですが、QuizKnockさんなどとコラボ動画をやられているみたいなところで、まずは年金シミュレーターに入る形の発想。

それを自分が得になるのか、損になるのか、少し心配みたいなところで引っ張り込んだ上で、もっと知りたいという話になると、そこが分かるとか、よくある誤解みたいな話で

すね。

とにかく、社会保険料は安ければ安いほどいいみたいな形の発想に対して、こういう考え方がありますよ、みたいな形で考えていくと、学校教育とかでは、いろいろな情報がある中で、必要になったときに、どこを見ればいいのかを明確にして、そこに今おっしゃったような形で情報を集約する。

だけれども、見に行っても、自分に関係なさそうだと思うと、見に行かないので、あなたに関係がある、あなたが幾らもらえるかが分かりますというところへ引っ張り込む。

だけれども、その前に、そもそも年金とは何ですか（という内容）を初めて来た人は読まないと、よく分からないねみたいな状況になっていく。

先ほど申し上げた初めて来た人とか、使い方が分からない人は、単なるマニュアルがそこに載るのではなくて、年金とはそもそも何なのですかみたいなところが意外と分かっていないと思うのです。

そういうところがしっかりと理解できる、あるいは読もうと思えば読める、さらに、動画だったら見たいと思うみたいな仕掛けで、公的なシミュレーターの前段階を先ほどおっしゃった教育だけではなくて、年金のポータル的な仕掛けにしていく。そうすると、自分に直接関係がある。

利他の精神も大事なのですが、私はそういうものにそんなに期待していないので、自分が最も大事で、自分が生き残ることが最も大事だと人は思うと勝手に思っているので、そういうところに引っ張り込んで、実はみんなが助け合わないと、あなたも生きていけないのですという情報がそこにあるほうが分かりやすいのではないだろうかと。

そもそも年金とは何ですかとか、そういうことを一生懸命に副読本で伝えようと思っても、学校へ行くと、副読本を誰が読むのですか。副読本だけで教科書の何倍もあるのに、使い切れないわけですから、それよりも、学校ではどこに情報があるかを明確にしてもらうことでもいいのではないだろうかという印象を持ちました。

○上田座長　ありがとうございます。

若い人向けに、選挙の前に（政党に）こういうことをやってほしいと入力していくと、あなたは何々党みたいに表示されるものがありますが、そんなイメージですか。

○河井構成員　そうですね。

ボートマッチみたいなものも面白いのですが、ボートマッチよりも、明らかにこっちのほうが直接自分の金になるので、引きつける力は強いと思うのです。

そもそも選挙に行く気がない人はボートマッチをしないので、そういう意味では、基本的にお金が欲しいわけです。将来、仕事がなくなったときにまずいのではないだろうかと思ったときに、早めに年金シミュレーターとかを使ってみようかと思うと。

使ってみようと思ったときに、実は年金はこういうことですみたいなところが、事前に使おうと思うと、そもそもそういうことだったのだということが腑に落ちる仕掛けみたいなものは、今までも既に作られているので、それらをしっかりと集約して、分かりやすく

する。この動画もすごくいい動画なので、そのようなところをしっかりと見てもらう。その上で､年金シミュレーターを使おうかと思うみたいな形にするだけでも結構意味がある。

学校教育に期待し過ぎだと私は思っていて、何でもかんでも学校でやりましょうみたいな、そんなに一生懸命に授業を受けていないですみたいな感じもあるので、本当にお金が必要になったときに、自分が困ったときに見に行く場所はここです、それさえ分かっていれば、半分しか聞いていなくても、そういえばお金に困ったときにどこか見ろと言われたみたいなところは残っているのではないだろうかと。

学校教育は、さっきの言い方を変えると、水先案内をする場所で、分からないときはここに来ましょうと。昔みたいに、情報量がすごく少ないのだったらともかく、これだけある中で、全部それを覚えて使いこなしてくださいというのは無理なのではないかと思っている感じです。

○上田座長　ありがとうございました。

ほかの皆さん。

漆原さん、どうぞ。

○漆原構成員　今日は大変参考になる御説明をありがとうございました。

今日のお話を聞いていて、ワークショップや議論を取り入れたり、公的年金シミュレーターを使う時間を設ける、そして、キャリア教育やライフプランニングの一部とした教育方法が考えられると思いました。

例えば今回、資料を見せていただいて、公的年金シミュレーターの使用率は高くないけれども、利用を検討したいとする率は高いことや、御説明いただいた期待される教材の内容について、全ては満たさないものの、この中で公的年金シミュレーターによって期待にかなう部分も多くあると思いました。

限られた教育の時間数を制度説明などに全て充ててしまうよりは、年金を自分事として捉えられるように、授業に年金シミュレーターを使い、例えば最初は事前にモデルケースを用意して、使い方に慣れたら、自分の希望する生活パターンの試算や、逆に希望の年金額を将来もらうには、どの程度働く必要があるのかを逆算するなど、自分の人生設計をゲーム感覚で操作してみることで、ライフプランニングの一部として捉えられて、身近に感じられ、印象に残るのではないかと考えました。

実際に、とても勉強が嫌いな中１の子と年金シミュレーターを使ってみましたが、本当に全く年金や社会保障に興味がないといったところから、操作の方法が分かって、使い始めたら、目をきらきらさせて、モチベーションが上がったということで、いろいろと自分で試算をし始めて、クラスのみんなにも教えてみようというところで、全く勉強に積極的ではない子が、自分の人生設計の一部として捉えることで、前向きになったこともありましたので、ぜひ制度説明だけではなくて、実際に幾らもらえるのかということを目で見てみるのもとても大事なことかなと思いました。

以上です。

○上田座長　ありがとうございました。

それでは、お時間がかなり迫ってまいりましたので、特に御意見はよろしいでしょうか。

では、事務局から。

○菊地係長　皆様方、大変すばらしい御発表や御意見をいただき、ありがとうございました。

私自身、長年、年金教育として、様々な学校にご訪問させていただき、授業をさせていただきました。これまで、数えられないぐらいの学生の皆様と年金のお話をさせていただきました。

この経験を照らしても、学生の皆様の観点から、年金制度のどのような点が自分事になるかは、年齢や学齢、学生の皆様に間近に迫った社会的イベント、例えば就職や進学様々な点が興味関心のポイントとなります。

学生の皆様は様々なフックに興味関心のポイントがあり、それに応じて、年金制度やライフプランニングで何が知りたいのかという点が異なります、その内容を教授する授業の枠が家庭科なのか、公共なのかという教科別の観点もあります。

今回、構成員の皆様からのご意見は、学生の皆様の興味関心のポイントやそれを授業する観点から見た教授法や教材の利用のしやすさ、それらをポータルにしていく等、様々なご助言をいただいております。

今回、様々な御示唆をいただきましたので、事務局で論点整理をさせていただくくようにいたします。私共も日頃から学生対話集会等、いろいろな大学、高校にご訪問しておりますので、実際のフィールドワークを通じながら、より具体的な課題を明らかにして御議論いただけるように、論点整理して進めてまいりたいと思いますので、引き続き、皆様方の御協力、御助言を賜りますよう、お願いできればと思います。

どうもありがとうございました。

○上田座長　ありがとうございました。

それでは、本日の議事は以上で終了となります。

今後の予定につきまして、事務局からお願いいたします。

○安濟年金広報企画室長　本日は皆様、どうもありがとうございました。

多くの御示唆をいただきましたので、いただいた御意見を踏まえながら、今後検討させていただければと考えております。

次回の日程につきましては、先ほど資料でもお示しいたしましたが、冬頃を予定しておりますので、また追って皆様方に事務局からメール等で御紹介させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○上田座長　それでは、皆様、今日はお忙しい中、大変ありがとうございました。

津波警報で電車が止まって、遅れまして、大変失礼いたしました。

それでは、本日の会議はこれで終了いたします。

どうもありがとうございました。